老年期障害治療学実習
(脳活性化リハビリ・作業回想法)

学修資料

高齢者の症状と能力を生かす方法

失われた機能を補う治療中心ではなく

残された（　　①　　）を生かすケアを重視する視点

「歩けない」　→　「車椅子」

「尿失禁」　→　「おむつ」

「風呂に入れない」　→　「介助浴」





「なぜできないのか」　「どうしたらできるようになるのか」

答えは個々のケースで異なるが，対応法を考える

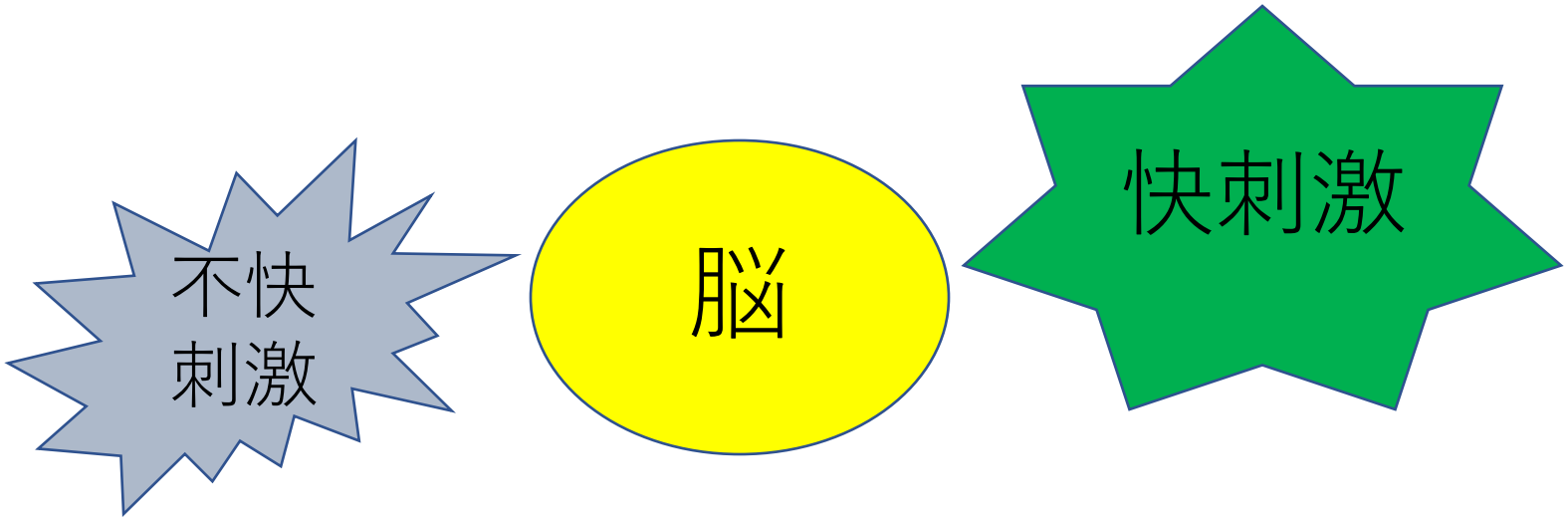
空欄を埋めなさい。

脳活性化リハビリテーション

- 脳活性化リハビリテーション

  失われた認知機能そのものの向上も期待するが，脳活性化リハビリテーションを通して人と人が触れ合い，心が通じ合って生きがいが生まれ，意欲が引き出され，認知症があっても前向きに暮らすことを目的にする

脳活性化とは



脳活性化リハビリでは「（　　①　　）な快刺激」が求められる

（　　②　　）なストレスが脳活性化につながる

空欄を埋めなさい。

脳活性化リハビリテーションの原則

- 快刺激
- コミュニケーション
- 役割と生きがい
- 正しい方法の繰り返し

脳活性化リハのプログラムに（　　①　　）を組み込むことが望まれる

空欄を埋めなさい。

快刺激

- 楽しい時間を過ごす
- 馴染みの道具を使う　（作業回想法）
- 間違えない課題を与える（満点主義）

褒めることが大切
快刺激により脳では（　　①　　）が多量に放出され
意欲が出て前向きになる

空欄を埋めなさい。

コミュニケーション

●仲間と楽しく交流する

- コミュニケーションが生じる
- 笑顔の中には（　　①　　）コミュニケーションも生じる

楽しくなくても笑顔を作ると心が愉快になる

楽しい時間を共有できる

空欄を埋めなさい。

役割と生きがい

能力を発揮できる仕事や役割を与える

↓「生きがい」

自分が周囲に役立っているという

↓

高齢者が古い道具の使い方を若いスタッフに教えるという役割

↓

面倒をみる立場が逆転　→いきいきと輝く

正しい方法の繰り返し

ミスを誘発しないようにサポートし正しい方法を繰り返す

↓

能力を身につけるというアプローチ

（満点主義）

高齢者が頻繁に誤るような難しい課題を

与えないで，（　　①　　）可能な課題を繰り返す

うちに能力を高める

空欄を埋めなさい。

回想法

- １９６４年　ロバート・バトラー　（米国　精神科医）確立
  高齢者を対象とする心理療法の技法

  高齢者の過去への回想に，専門家が共感的受容的姿勢を持って意図的に働きかけることによって，高齢者の人生の再評価やアイデンティティーの強化を促し，心理的安定やQOLの向上を図ろうとする方法

回想法

認知症高齢者は昔の出来事記憶は比較的良く残っている

↓

残存機能に働きかけることにより認知機能や
精神活動の改善に期待

↓

喪失感を感じることの多い高齢者にとって一時であっても現在の不安や混乱から解放
(快刺激)

作業回想法

- 回想法の一つ
- 従来の回想法に古い生活道具などを使う作業を組み合わせることで，認知高齢者の「回想」を促すとともに「作業」を通じて残存機能である（　　①　　）記憶を引き出すことによってQOLの向上を図る手法である

空欄を埋めなさい。

作業回想法

- 回想の手がかりとなる物品を使うので通常の回想法より回想しやすい

- 適応となる対象者が広い

回想法の機能

- 個人の内界への機能
- 社会的・対人関係的・対人世界に関わる機能

認知高齢者が「作業し回想する」ことに加えて「人に教え伝える」という高齢者本来の（　　①　　）を取り戻すことが狙い

空欄を埋めなさい。

作業回想法の効果

閉じこもりがちな高齢者に回想法をおこなった

●参加者（　　①　　）の内面への効果

- 自我の形成，自尊感情の高まり

●（　　②　　）性への効果

- 対人関係の進展，生活の活性化，環境への適応

●認知高齢者の（　　③　　）が豊かになる

- 情緒の安定にも効果，笑顔やコミュニケーションの増加，

●（　　④　　）の意識の改善

空欄を埋めなさい。